

令和8年度「一般入学者選抜」
学力検査国語科出題方針

- 1 学習指導要領に基づき、国語の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにする。
- 2 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにする。
- 3 自分の立場や考えとその根拠が明確になるように、複数の情報を整理し判断する力をみることができるようにする。
- 4 言葉による見方・考え方を働かせ、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにする。

令和8年度本検査「国語」学力検査について

1 問題構成

全体の構成については、昨年と同じで変更はない。大問は一から七まであり、それぞれの内容は、次のとおりである。

大問一	:	聞き取り検査	(6点)
大問二	:	漢字の読み	(8点)
大問三	:	漢字の書き取り	(8点)
大問四	:	説明的な文章	(24点)
大問五	:	文学的な文章	(22点)
大問六	:	古典	(20点)
大問七	:	条件作文	(12点)

2 領域及び分野

国語の〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕について、受検者の力をみることができるようにした。どの大問にも、複数の領域が関係しているが、各領域と問題との関係は、概ね次のとおりである。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」	:	大問二、三、四(1)	(18点)
「情報の扱い方に関する事項」	:	大問四(5)ⅠⅡⅢ、六(5)(a)	(12点)
「我が国の言語文化に関する事項」	:	大問六(1)(2)(3)(4)(5)(b)	(14点)
「話すこと・聞くこと」	:	大問一	(6点)
「書くこと」	:	大問四(6)、五(5)、六(5)(c)、七	(23点)
「読むこと」	:	大問四(2)(3)(4)、五(1)(2)(3)(4)(6)	(27点)

3 出題内容及び予想平均点

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な〔知識及び技能〕及び〔思考力・判断力・表現力等〕が適切にみられるようにした。

大問一は、杉田さんと坂井さんが、デジタル機器によるストレスと社会問題との関連を「デジタルデトックス」という方法を取り上げて考えることで、発見していくという過程を正しく聞く内容(「話すこと・聞くこと」)。大問四(5)は、問いⅠ・Ⅱ・Ⅲ 筆者の書いた複数の文章を読み合わせた上で、筆者の主張を、条件に合うようにまとめる内容(「情報の扱いに関する事項」)。大問五(5)は、文章から読み取れる貴音の思いについて、指定語を用いて答える内容(「書くこと」)。大問六(5)(a)(b)(c)は、授業で作品を読んだ生徒の話合いから考える内容(「情報の扱いに関する事項」)。大問七は、「条件作文」は、新しい「もの」と馴染みある「もの」に関する文章を読み、それをふまえた二つの考え方のどちらか一つを選び、自分の体験を取り入れながら、今後の「もの」に対する考えを書く問題。「A」・「B」どちらかの考え方を選んだ理由を自身の言葉で分かりやすく説明できているかと、今後の「もの」に対する考えを自身の体験を用いて具体的に伝える文章になるように工夫して述べる問題。

予想平均点は50点～55点で、難易度は昨年度の本検査(平均50.4点)と同程度と考えている。

(問合せ先) 千葉県総合教育センター学力調査部
電話 043-212-7588